

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
19	宇都宮国際YouMe ^{ゆめ} スクールの創設 ～小・中・高・大学一貫国際理解教育の すゝめ～	宇都宮大学国際学部中村研究室チームA ¹	
		周管夏美	宇都宮大学 国際学部
		指 導 官 氏 名	中村 祐司

1. 提案の要旨

宇都宮市の国際交流・国際理解の現状および在住外国人の支援について分析するため、第二次宇都宮市国際交流化推進計画および栃木県小中学校における国際理解教育についてのアンケートを考察する。さらに宇都宮市国際交流プラザおよび宇都宮市国際交流協会に聞き取り調査、宇都宮市在住外国人にインタビューを行った。これらにより宇都宮市の国際交流事業や民間も含めた活動について以下の課題をあげる。

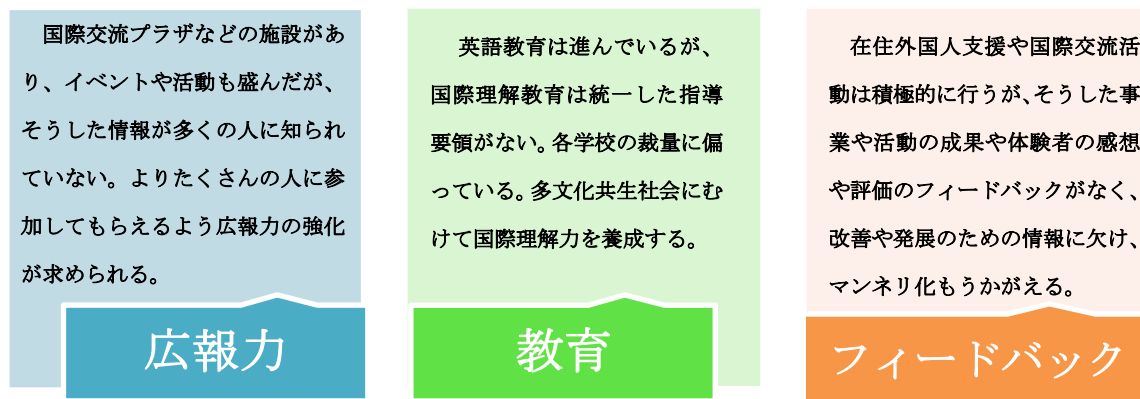


図 1 宇都宮市行政および民間の国際活動の問題点

宇都宮市にはさまざまな国籍や背景を持った外国人がいる。彼ら彼女らへのサービスは比較的整っているように思うが、実際の生活のなかでの日本人とのかかわりはどうだろうか。特に日本人の多文化理解や外国人への気遣いに欠ける現状がある。外国人が住みやすいまちづくりを考えるためには日本人の理解や意識を深める必要がある。

これらの課題を解決するために私たちは小・中・高・大学一貫となった国際理解教育を行う学校、宇都宮YouMe^{ゆめ}スクールの創設を提案する。設備の整う宇都宮大学を拠点として様々な学年と宇都宮市区域から集まった学生に国際理解に関する知識を提供するとともに、国際理解・国際交流の中心として活動してもらおう。なおこの提案における学校の創設は、新しい施設を学校として建設することは意図しておらず、一貫した教育プログラムとする。

提案の目標

子供のころから国際化を身近に感じることで国際理解・多文化共生の定着をはかり、次世代の地域社会が外国人を受け入れやすい環境をつくる。このスクールのなかで学んだ知識や経験を活

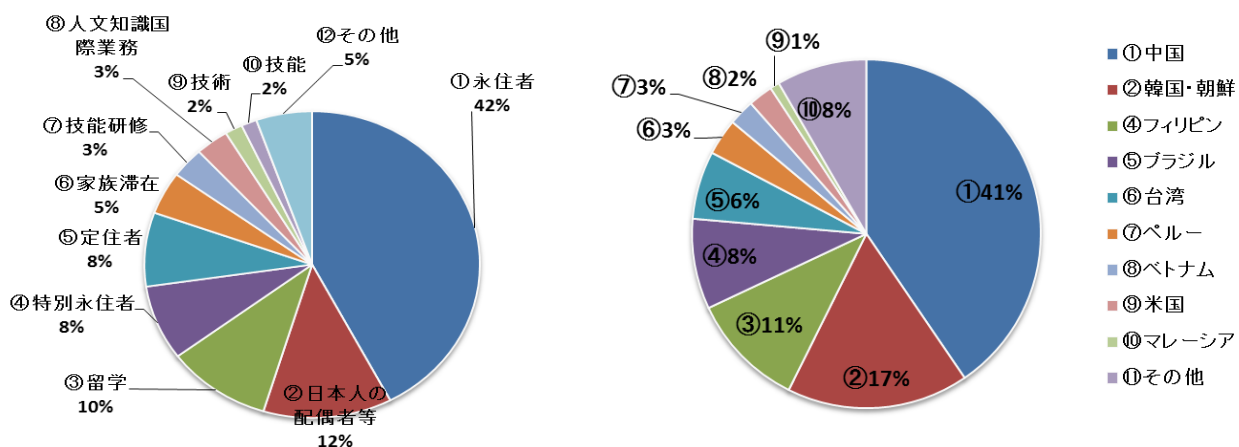
¹ 周管夏美・秋山勇貴・大柿彩華

かして将来さまざまな外国人を含むコミュニティの中でファシリテーターとして活躍することを期待する。今まで小・中・高・大学とつながりのなかった各世代と交流を図ることで、斬新なアイデアと活力のある国際交流活動にする。

2. 現状の分析と課題

2-1 宇都宮市の外国人データ²

市内に在住する外国人は世界同時不況や東日本大震災の影響によって大きく変化している。平成21年10月をピークに減少の一途を辿っているが、永住者の在留資格を持つ外国人は増加の傾向にある。地域別人口をみると出身国は多岐にわたる。



グラフ1 【平成 25 年国及び地域別外国人人口比率】 グラフ2 【平成25年在留資格別外国人人口比率】

2-2 小中学校での国際理解教育

栃木県の小中学校における国際理解教育についてのアンケート³をもとに、小中学校での国際理解教育の現状と課題をまとめる。なお、このアンケートの調査対象は栃木県内の小中学校であり地域・学校名は特定できないが、宇都宮市内の小中学校も含まれており、宇都宮市の国際教育を考察することはできると考える。

「総合的な学習の時間でどのようなテーマを重視していますか」という問い(選択式・複数回答可)に回答390校中約20%にあたる77校が「国際」を重視していると答えた。総合的な学習の時間以外の時間も含め、国際理解教育の具体的な内容については外国語活動の実施が最も多く67校あり、ALTの活用についての記述が多かった。その他には国際理解委員会(名称は学校により異なる)の設置、国際理解集会・週間を設けて意見発表を行う、日本文化についての理解を深める活動(伝統芸能、茶道体験など)、県や各市国際交流協会等人材の出前講座、アジア学院との交流などが挙げられた。

外国人児童生徒の在籍の有無も調査に含まれた。結果在籍の有無が国際理解に対する意識の程度に直接は結びついていないが、外国人児童生徒の在籍が特に多い学校では、彼らを活かした取

² 住民基本台帳(平成25年4月末日現在)
³ 2014年11月宇都宮大学国際学部特任准教授若林先生により実施
 県内小中学校562校中390校が回答

り組みを積極的に実施していることがわかった。

その他に国際理解教育を学校で行うにあたり具体的にやるべきことがわからないという意見や国際理解教育＝英語活動を疑問視する意見も多かった。特に取り上げたいのは「教員一人ひとり重要性をわかっており、義務教育9年間を見通した系統的な指導計画の必要性を感じている」という意見である。国際理解教育の基準や指標の必要性を強く感じさせる。

2-3 宇都宮市の国際交流活動の現状について

宇都宮市の国際交流の現状を知るため、国際交流プラザと宇都宮市国際交流協会に聞き取り調査を行った。

2-3-1 国際交流プラザへの聞き取り⁴

Q：行政として国際交流活動政策にどのように取り組んでいますか。

A：国際交流の分野の成果は数字としてわかりにくい。法律での縛りもなく、どれくらいの規模で行うかは人によりけりである。そこで市民主体を基礎とし、行政は実際に事業を行うのではなく各団体の活動の資金やイベントなど間接な支援に重点をおく。また、在住外国人の支援を行うことも国際理解、多文化共生の促進になると考えている。

Q：宇都宮市の国際交流の特徴を教えてください。

A：他市町村と比べ比較的早く取り組みが始まり、姉妹都市5か所との交流も盛ん。他の市町村では一般的に市に依存する国際交流協会がNPO法人として自立し、独自の事業を行っている。活動団体は多いが、連携が取れていないことが課題である。

Q：宇都宮市にはどういった外国人が暮らしていますか。

A：全国的な傾向同様中国などのアジア系、南米の出身者が多い。ネパール、タイ、フィリピンからの労働者も増加。多言語への対応は難しく、主な約5言語と“やさしい日本語”を使った対応を行っている。家族と住む定住資格者が増え、今までは清原工業団地などに集住していたが、永住に伴いまちなかへの移住や戸建てを持つ外国人が多くなったことで居住地が広い地域に拡散して支援が難しくなった。

Q：外国人居住者へのサポートは行っていますか。

A：毎週曜日ごとに多言語での相談窓口を設けている。4か国語でニュースレターも毎月発行している。サポート等の事業では市民の税金を使う以上説明責任を伴う。特定の国籍など受益者が限られる事業はなるべく避け、広く支援が行き届くことを目指す。

Q：地域住民と外国人住民で摩擦はありますか。

A：よく挙がるゴミだしのような生活上の問題を耳にする。自治会や近所の人声掛けが解決につながると考えるが、特に日本人が言語や文化の違いを気にして意思疎通がとれていない。長く日本に住んでいる外国人も多く、彼らも全く日本語が話せないことはない。やさしい日本語を日本人にも理解してもらうことで円滑な地域コミュニケーションの向上を模索している。

2-3-2 宇都宮市国際交流協会（UCIA）への聞き取り⁵

⁴ 2014年9月12日 市民まちづくり部国際交流プラザ国際化推進グループ担当者への聞き取り

⁵ 2014年11月7日 多文化共生コーディネーターと事務局次長の2人への聞き取り

Q：宇都宮市の国際交流団体はどのようなものがありますか。団体同士のつながりはありますか。

A：UCIAの登録団体は33団体で、インターン生受け入れ、ホストファミリー、世界の絵本読み聞かせなどで団体交流がある。団体が集まる機会としては、フェスタmy宇都宮が大きなイベントである。

Q：宇都宮の国際交流イベントはどのようなものがありますか。

A：自主事業には施設見学、イチゴ狩り&防災館見学、BBQ、バスツアー、世界の絵本読み聞かせ、料理教室、ポットラックパーティー、日本文化ふれあいの会、国際理解講演会、「ようこそ！うつのみや」などがある。宇都宮市からの受託事業で国際交流サロンの開催やフェスタmy宇都宮の運営を行う。活動やイベントの参加者は外国人と日本人7：3の割合で日本人が多い。理想は半々である。

Q：宇都宮市民の国際理解度、国際交流活動への意欲はどのようなものですか。

A：意欲や関心はあるが、自ら率先して活動を行うまでには至らないような印象を受ける。著名人を講師に招いた国際理解講演会やイベントなどには参加するが事業参画になかなか直結しない。活動メンバーの中心が、主婦層や時間的・金銭的に余裕のある年代の方々になる。海外経験のある定年期の中高年層の参加も。活動を行うとすると、持続的に集まることができる人に限られてしまう。小学校での国際理解活動が活発。中学はあまりきかない。高校は各学校単位での取り組みを行っており、こちらでは把握できていない。

Q：国際交流の拠点（活動場所や利用施設）は何がありますか。

A：国際交流プラザ、市関連施設、総合福祉センター、生涯学習センター、各地区市民センター。

Q：活動やイベント、生活の情報は十分に行き届いていると思いますか。

A：毎月宇都宮在住外国人のための情報誌「おーい！」（日、中、タ、ポ、英）を発行、公共機関や外国人の多い企業、日本語学校、日本語教室、外国人が集まるお店などに配布している。過去にアンケートを行ったこともあるが、あまりフィードバックがない。内容がマンネリ化している。

Q：今後の課題があれば教えてください。

A：マスコミやフェイスブックなどを使った事業のPRを模索している。会員数は450人と多いが、実際に活動しているのは一部なので、もっと会員を中心に活動を活発にさせたい。また、他団体や自治会との連携の強化も課題。

2-3-3 宇都宮市の国際交流の現状のまとめ

私たち研究班は国際学部出身であり国際交流活動には興味を持つが、同じ学部の友人を含めて国際交流プラザの存在を知らなかった。実際行ってみると情報提供の多さや狭いが整った環境に国際交流プラザの潜在能力を感じる一方、利用者はおらず閑散としていたと感じた。職員に普段の状況を聞いてみると利用者はあまり多くないという。

宇都宮市には外国人サポートや国際交流を図る団体が多く存在している。個々に様々な活動やイベントを行っているが、団体同士の連携は少ない。また、そうした活動への市民の意見やフィードバックの収集に欠けるため改善が不十分である。情報源、国際活動拠点としては魅力のある国際交流プラザも利用率、認知度ともに低く市民への広報力が弱い。市民の関心はある一方で実際に活動する人は少なく、市民の活動意欲の刺激も必要である。

2-4 宇都宮市在住外国人への聞き取り

実際宇都宮市は外国人にとってどのような街なのか。また、彼ら彼女らはどのような問題を抱えるのか。宇都宮に16年在住のニュージーランド人1名と、宇都宮大学の留学生2名(コスタリカ、ガボン)にインタビューを行った。

質問	ニュージーランド (男性) 宇都宮歴：16年 日本語レベル：会話には困らない	コスタリカ (男性) 宇都宮歴：7か月 日本語レベル：会話には困らない	ガボン (女性) 宇都宮歴：7か月 日本語レベル：会話困難
①	宇都宮は住みやすい街ですか。		
	はい。以前住んでいた東京と比べてストレスがない。若いころは都会に魅力を感じたが、特に子育てのことを考えると宇都宮は本当に良い環境だと思う。	住みやすい。静か。人が優しい。道が平らで自転車でも生活に困らない。強いて言うならゆっくり話せる公園や踊れるクラブなど楽しめる場所がないのが残念。	はい。特に勉強するにはとても良い環境だと思う。娯楽の多い都会は集中できない。宇都宮であれば、生活にも困らず、休みになれば東京にも遊びに行ける距離なので便利。
②	今困っていることはありますか。		
	今のところ特に困っていることはない。妻が日本人で日本人の友人も多いので何かあれば彼らに相談する。	日本語での意思疎通には困らない。何かあれば他の留学生や日本人の友達に相談する。ただ自分のアパートには外国人しか住んでいないので、日本語の問題などすぐに相談できないのが難点。	日本語を話せなかった最初は困ったが、今は他の留学生や日本人学生アドバイザーの助けがあるのであまり問題はない。しかし先日急に病院に行き英語対応できる人がいなくて困った。
③	宇都宮市の外国人サポートをどう思いますか。		
	様々なサポートはあるがまだ不十分だと思う。もっと多言語での情報が必要である。	今のところ早急に欲しいサポートは思い当たらないが、外国人のための暮らしの便利帳は読みづらく改善してほしいと思う。	先日、留学生は県内の博物館、美術館など入場無料のカードが送られてきた。自分の存在を知って気にかけてもらえているという実感が持てて嬉しかった。
④	国際交流プラザを利用したことがありますか。		
	日本語の講座やいろいろな情報を得るため行ったが、活動に参加したことはない。	行ったことがある。日本語講座やイベントの情報を得るためです。	知らないです。
⑤	日本人と交流を図るイベントに参加したいですか。		
	積極的ではないが、機会があれば参加する。慣れない外国人や留学生には良い経験にな	時間があれば参加したい。日本人の友達と大学の中で出来るので困ってはいない。	

	と思う。		
⑥	日本人と意思疎通はとれていますか。		
	日本に20年以上住むが日本語や日本人独特の習慣、“本音と建前”の理解には苦勞する。	日本人は本音を口にしない。自分はフレンドリーに接していても見えない壁を感じる。友達ができるが親友ができない。	日本人と話す機会が多く、おかげで日本語が上達しているが、まだ会話は難しい。
⑦	宇都宮市行政への要望はありますか。		
	税金を払っているのに、選挙権がなく、外国人というだけで断られる場面も多い。私も義務を果たしている宇都宮市民なのだから、日本人と平等に扱ってほしい。	・市だけではなく、相談すると書面の説明だけで終わる。要点だけでも口頭での説明がほしい。 ・街中の標識や注意書きを英語で書いてほしい。	

【在住外国人への聞き取りのまとめ】

3人とも宇都宮市の環境にはとても満足しており、行政の外国人むけのサービスへの要望は特にない。しかし日本人独特の習慣や雰囲気戸惑い日本人とのコミュニケーションには苦勞しているようだ。ある程度のサポートは必要としているが、“外国人”と特別視されるのではなく、宇都宮市民の1人として社会に溶けこみたいという意思を感じる。

3. 施策事業の提案

小・中・高・大学一貫国際理解教育のための宇都宮国際^{ゆめ}YouMe スクール設立の提案

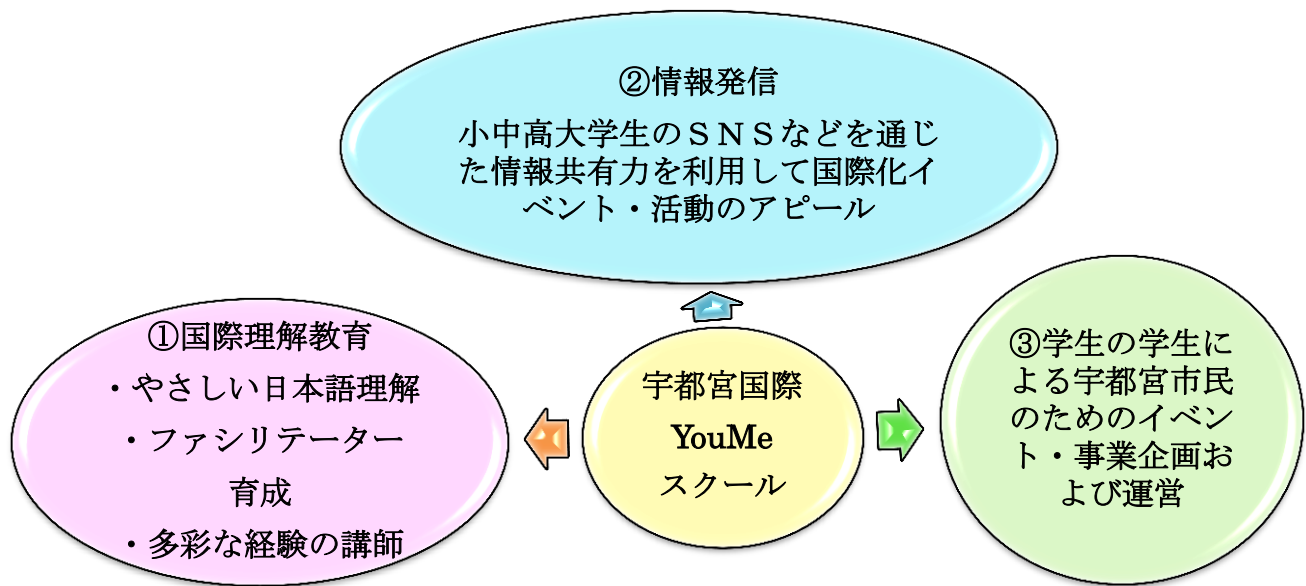


図 2 国際^{ゆめ}YouMe スクール構想

3-1 対象

宇都宮市内の学校に通学する小学校高学年～大学生で各学年5～6人の入学者を募集する。

3-2 内容

外国人が住みやすいまちにするために欠かせないのが日本人の国際理解・多文化共生への意識である。市民に国際化活動に積極的に参加してもらいつつこれらの理解を定着させるために、国際理解教育を目的とした学校をつくる。小学生から大学生までの広い年代の学生を集め、国際理解の知識をもつ人材の育成をはかるとともに国際交流にかかわる情報の市民への拡散、様々な視点を取り入れた学生による斬新なイベント企画を行う。

3-3 設置場所

新しく建物を造ると費用がかかるため既存の施設を利用する。国際交流プラザについては建物の5階という立ち寄りにくさ、利用時間の制限、複合施設との兼ね合いを考え、最終的に宇都宮大学施設の活用を提案した。バス等での交通の便もよく、大学施設が持つ複合的機能の利点を活用する。具体的には、新設されたラーニング・commonsおよび入口のすぐ右手側に位置するUUプラザの使用を提案する。

3-4 授業カリキュラム

生徒が本学の授業や課外活動で多忙であることを考慮し、免許教習所の学科のような授業体制をとる。平日は夕方2コマ、土日は3コマ授業をランダムに開講し、いつ授業を受けるかは生徒が選択できる。

(仮名としてA～Rまでの授業科目を想定)

11月前半授業日程表

	月	火	水	木	金	土	日
11月(1週目)	A・D	Q・E	H・B	L・M	K・I	C・F・N	P・G・R
11月(2週目)	J・L	O・F	R・I	C・D	G・A	E・M・K	B・H・J

表1 授業

【例】A君

1週目→授業HとGを受講

2週目→授業JとAを受講

3-4-1 授業内容——国際理解教育

【国際理解教育とは】⁶

だれもが平和で公正な世界を願っているが、私たちの住む地球は、戦争、貧困、開発、差別、人権、環境問題など様々な問題を抱え続けている。「国際理解教育」は、このような地球的規模の課題に対し、(1)世界の現状を「知る」→(2)課題に「気づき考える」→(3)自分にできることを「実行する」というプロセスで学習に取り組む教育のこと。このような参加体験型・課題解決型の学習を通して、「多文化共生の理念」を育み、平和で公正な地球社会作りに「参加する態度」を養うことを目的としている。

宇都宮国際YouMe^{ゆめ}スクールでは英語教育ではない、多文化共生を目指した国際理解教育を行う。

⁶ S I A国際理解教育サポートページより 国際理解教育とは 抜粋
<http://www.os.rim.or.jp/~sia/kokusairikai/index.html>

【やさしい日本語講座】小・中学生むけ

“やさしい日本語”（を学び自分たちが使えるように実際の場面を想定したロールプレイ、やさしい日本語を用いた案内やチラシ作りなどを通して、やさしい日本語）を広める活動を行う。やさしい日本語とは通常の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のことである。例えば

<p>文章A【一般文章】</p> <p>けさ7時21分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。大きな地震のあとには必ず余震があります。引き続き厳重に注意してください。皆さんおちついて行動をお願いします。ガス臭いようなところがありましたらマッチを擦ったり、照明のスイッチをつけたり、消したり、ということはありませんでください。</p>	<p>文章B【やさしい日本語】</p> <p>今日 朝 7時21分、東北地方で 大きい地震が ありました。大きい 地震の 後には 余震<後から 来る 地震>が あります。気をつけて ください。火を 使わないで ください。火事に 気をつけて ください。</p>
--	---

表2 減災のためのやさしい日本語 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>

宇都宮市には様々な国籍の外国人が住んでおり、そのすべての言語で情報を提供することは難しい。英語での発信も考えられるが、英語を理解していない外国人も多い。そこでやさしい日本語を用いることで日本人とでもコミュニケーションが円滑に行えることを目指す。災害など緊急時には特にこのやさしい日本語が日本人・外国人の適切な行動につながると考えられる。⁷

実際の授業の中では、先に例示したように、たとえば移動教室で困っている転校生の日本語が少しわかる外国人のクラスメイトを想定したり、中学生などでは英語圏で生活すると想定して自分たちが使える英語の表現か、現地の人にはわかる少し難しい表現を見比べるあるいは話してみることでやさしい日本語がどのようなものかを感じたりすることをイメージする。

【ファシリテーター養成講座】高・大学生むけ

ファシリテーションとは、人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶようかじ取りすることである。集団による問題解決、アイデア創造、教育、学習など、あらゆる知識創造活動を支援し促進していく働きを意味する。その役割を担う人がファシリテーターであり、会議で言えば進行役にあたる。⁸

まずはここで学んだ知識を各自が通う学校で実践してもらおう。将来的には国際化活動および地域コミュニティのリーダーとなる人材の育成をはかる。

【経験豊富な講師人による講座】

NPO法人や国際交流団体、一般企業から国際活動の経験豊富な人物を招き、講義を行う。実践的な知識をみにつけるとともに、生徒たちの具体的なキャリア目標の参考にする。

3-4-2 課外活動①——情報発信

学生に積極的に行政や民間のイベントや活動情報を紹介し、参加してもらおう。また情報共有の中継者となり、通学している学校へ情報を伝えてもらう。さらに各個人のSNSでの情報共有力を利用して情報を流してもらい、広報力の強化を図る。

⁷ 弘前大学人文学部社会言語学研究室「やさしい日本語」参照 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/index.html>

⁸ 日本ファシリテーション協会(FAJ)より ファシリテーションとは 参照 <https://www.faj.or.jp/>

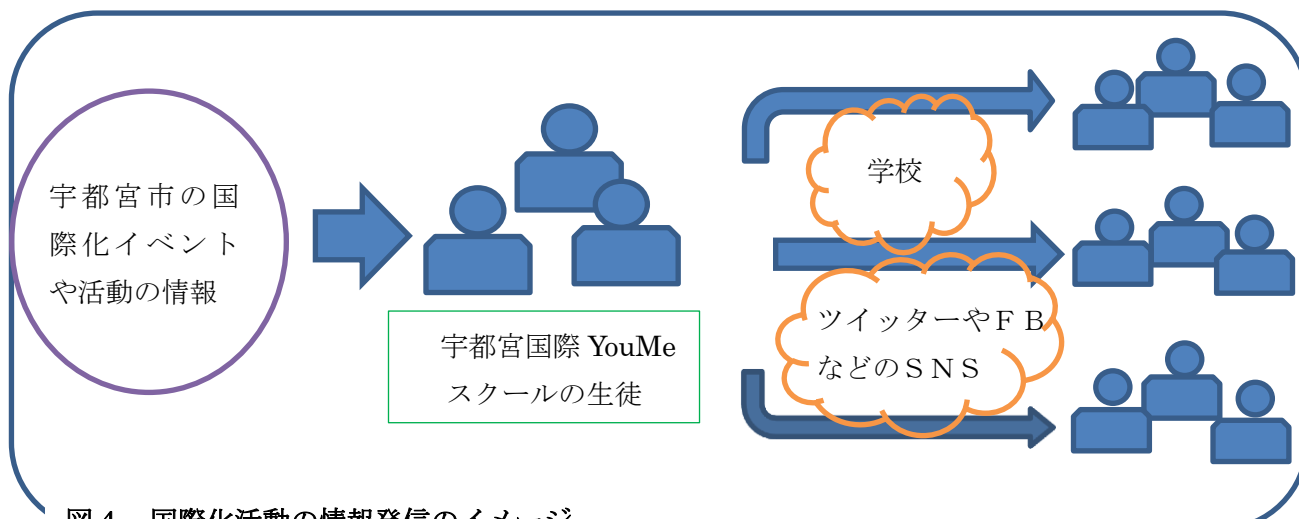


図4 国際化活動の情報発信のイメージ

3-4-3 課外活動②——学生による国際交流・理解イベントの企画と運営

小・中・高・大学生が話し合い、協力してイベントの企画と運営を担う。まず企画の話しあいや普段の授業(講座)やグループワークにも使える環境を充実させる。

【宇都宮大学ラーニング・コモنزの利用】

宇都宮大学ではラーニング・コモنزという主にグループワークむけのスペースを設けている。グループワークに適した椅子や机はもちろん、壁全面・可動式ホワイトボード、パソコン、Wi-Fi、プロジェクター、カラーペンやふせんなどの小物まで、とことん話し合いができる環境を整えている。学生同士の学びを促進するための設備であり、宇都宮大学の学生であれば24時間利用可能である。⁹



話し合いに使える道具類

→ 話し合いスペース
(壁・可動式ホワイトボード)



→ パソコンスペース



発表・掲示物および参考図書



⁹ 写真：宇都宮大学ラーニング・コモنز <http://lgec.utsunomiya-u.ac.jp/lc/index.html>
2014年11月15日周管撮影

3-5 実施者と実施における課題

宇都宮市もしくは宇都宮市国際交流協会(U C I A)の受託事業として行う。ただしU C I Aまたは一般のボランティア、および生徒自身が運営する。費用は場合によっては市の補助を申請するが、基本的に企業からの協賛で運営する。企業にはC S Rの1つとして資金だけでなく講師の派遣などの協力も求める。ただし現在のところ一般市民・企業からどれくらいの協力が得られるのかはわからない。

さらに他の課題としては子供からの人材育成に取り組んでも、将来彼らが宇都宮に住み続けるとは限らないことである。実際東京への若者の流出は続いている。育成した人材が宇都宮市内でその知識と経験を活かしてもらい次の世代に引き継ぐ長期的なプランも必要である。また参加したい児童生徒、学生を募集する形になるので、効果を期待できるだけの人数を定期的に集めることができるかによって続ける可能性と必要性が変わってくる。

4. おわりに---提案がもたらす効果と宇都宮市の将来像

今後さらに在住外国人は増えると予想されるが、宇都宮国際YouMe^{ゆめ}スクールで育成した学生を中心に国際理解が市民に定着し、地域住民と外国人の生活の摩擦が減り、活発な交流と互いに助け合うコミュニティの形成を期待する。急速に進む国際化に世代による国際理解度や価値観も変わってくるだろう。そうした変化についていけない上の世代が取り残されることもあるかもしれない。この提案は若い世代を中心とした次世代地域社会をみすえた提案ではあるが、加えて人と人が繋がることで広い世代に拡散することをはかっている。国籍、年齢にかかわらず様々な背景をもっている共通の国際理解ができ、誰もが暮らしやすい社会になることを期待する。

参考文献

住民基本台帳 2013年4月

第2次宇都宮市国際化推進計画 宇都宮市 2014年3月

栃木県小中学校における国際理解教育についてのアンケート 多文化公共圏センター 2014年

「地域に開かれた安全・安心な学校づくりガイドブック」 文部科学省 2013年

参考資料

- ・ラーニング・コモンズ／宇都宮大学基盤教育センター
<http://lgcc.utsunomiya-u.ac.jp/lc/index.html>
- ・宇都宮市国際交流協会 <http://www.ucia.or.jp/>
- ・災害のための「やさしい日本語」 弘前大学人文学部社会言語学研究室
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/Default.htm>
- ・S I A国際理解教育サポートページ <http://www.os.rim.or.jp/~sia/kokusairikai/index.html>
- ・日本ファシリテーション協会(F A J) <https://www.faj.or.jp/>
- ・地域の活性化に国際交流を活かせる自治体とは <http://www.clair.or.jp/j/exchange/docs/H22.pdf>